

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 10 月 25 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300159
法人名	株式会社ケイシン
事業所名	グループホームことぶき太陽の家
所在地	鹿児島県鹿屋市笠之原町3番44号 (電話) 0994-40-9635
自己評価作成日	平成29年8月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成29年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りが緑の木々に囲まれた静かな住宅街で季節を感じながら過ごせる環境にあり、木々の間からは、鳥のさえずりなど感じながら地域の方々と散歩が一緒になったり挨拶をかわして交流を深めています。

町内会にも加入積極的に行事にも参加し協力を行っています。経営者は、幼児教育・高齢福祉に力を注ぎ保育園児・学童との交流は、行事等に活用されています。

職員には、理念に掲げている「入居者様の立場に立った介護」を目標に日々ケアに努めています。利用者様が生活の中で出来る事をして頂き、生きがいを持って生き生きと暮らして頂けるよう、パーソンセンタードケアをケアのコンセプトに認知症介護の実践に取り組み、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○理念に加え、事業所の目的と運営方針を定めており、それぞれに地域交流や地域との連携といった文言を盛り込み、自治会に加入することで地域行事を把握し可能な限り参加し交流している。また、事業所主催の行事に保育園児や地域住民に声をかけ参加してもらう機会も多く、相互に交流が行われている。

○管理者は利用者が自立した生活が送れるようにと個々の利用者のできることで、できないこと、したいことやしたくないことを理解し把握することで支援につなげる努力を行うとともに、車椅子から歩行器、歩行器から歩行に移行できるよう支援したり、麻痺側でない手に薬を渡し自分で口に運んでもらうなど、できることへの参加にこだわり、残存機能を最大限に生かせる努力と工夫がなされている。

○玄関は広くリビングへの動線もスムーズであり、利用者の作品の展示や季節毎の飾り付けがなされ、明るい雰囲気を感じられる。浴室も広く、浴槽が中央に配置されているため、麻痺等の状態に合わせ、どちら側からも浴槽に入ることができ、浴室内の床は撥水効果の優れた素材を用いるなど転倒防止にも対応している。

○万一に備え消防署や地域住民の参加のもとで災害訓練を実施するほか、ミーティング時に消火器の点検や避難経路の確認、備蓄や備品の確認等、消防担当の職員を充てて実施、対応している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の内容に地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を見やすい位置に掲げ管理者と職員は理念にもとづいた介護が出来るよう努めている。	理念にはもちろんのこと、目的や運営方針にも地域という言葉を含み込むなど、地域に根差した事業所でありたいと考えている。そのために毎日「職場の教養」を読み合わせるほか、確認の意味を踏まえ週1回理念を唱和し、振り返る機会を設けている。	
2	2	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して地域の行事に利用者様と参加し交流を図っている。保育園・学童及び地域のボランティア等と定期的に来園し交流を図っている。	十五夜や敬老会、運動会などの地域行事に参加するほか、保育園児との交流や行事の際の慰問ボランティアの受け入れ、また、日頃から散歩や買い物時に挨拶や会話を交わすことで、いつでも事業所の見学に来てもらえるような関係を築いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方や見学者からの質問等ある際は、その都度説明させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催出席者の意見アドバイスを頂いている。入居者様の状況や活動等報告を行い出席者との意見や情報の交換・アドバイスと改善に生かしている。	会議では家族や職員、行政職員のほか町内会長や住民婦人代表、市議や消防団員等多数参加され、事業所の取り組みやヒヤリハット、外部評価の報告等が行われている。また、情報交換を兼ね他のグループホームの運営推進会議に参加するなど、常にサービスの向上について考え取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市が主催する集団指導への参加や運営推進会議にて情報や意見の交換を行っている。市の担当者とは、密に連絡を取り相談や助言を頂いている。	行政とは運営推進会議で顔を合わせるほか、介護認定更新時や相談事が生じた際に出向くなどして意見を交わしている。また、グループホーム協議会や認知症セミナー等行政主催の研修でも情報交換を図るなど、日頃から事業所の実情を伝える機会は多くある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修会や勉強会を行いミーティングでも職員が身体拘束について正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置しミーティング時に外部研修の報告を行い話し合うほか、職員の対応に疑問を感じた時は個別に意見を聞くなどしている。日々の記録は利用者の目の届く場所で行うなど、さり気なく見守りを行い声をかけられるよう努めている。また、町内会で開催された徘徊模擬訓練に参加するなど地域住民との関わりも大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関しても勉強会を開き身体虐待のみならず心理的虐待ネグレクト等の知識を高め職員の意識を図り虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度についての研修に参加している。成年後見制度を利用されていた人が入居されていた事もあり勉強会を聞くなど支援に結びつけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、契約内容を必ず家族と一緒に観ながら分かりやすく説明しご家族も納得の上入所して頂いている。改定時も都度説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員や管理者に意見や要望を話してもらえる関係作りを行っている。玄関に意見箱を設置し利用者や家族の意見や要望を出しやすいようにしている。	家族来所時には管理者が可能な限り面談し意見や要望を確認するほか、年2回の家族会でも努めて意見を聞くようにしている。ヒヤリハットについてはこまめに記録に残すとともに、当日のうちに職員間で申し送りし家族への報告までがなされており、事業所での安心した生活につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティング時に職員の意見・要望等を話し合う機会を設けている。また、日常的なコミュニケーションも大切にし、何でも話してもらえる関係作りに努めている。	管理者は毎月のミーティングや年2回の個別面談で意見を聞き取るほか、普段から何でも意見を言える関係に努めており、職員一人一人の思いを十分に把握することで事業所の運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人役員と法人内の管理者会議を月に1回開催している。代表者も職場や職員の状況を把握し、職場環境や条件整備を行っている。介護業務以外の業務を行うことができるよう勤務調整もおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会の研修会や地域のグループホーム勉強会に多くの職員が参加できるようにしている。研修受講後は職員会議で研修の報告を行っている。資格取得にも奨励し、勤務体制の調整等も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等への職員参加を積極的に取り組んでいる。また、地域のグループホーム間でも定期的に交流があり介護の質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人からの必要な情報に耳を傾け利用者が不安なく安全に安心した生活が送れるように努力し職員との信頼関係作りに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族からの相談や要望を切実に受け止め少しでも不安が解消されるよう心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族が必要としている支援を第一に考えサービスを利用して頂く様に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者に洗濯物たたみ・洗濯物干し・お盆吹き等積極的に手伝って頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所での行事等の案内を家族に送り参加して頂き共に食事等楽しんで頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場での思い出を大切に途切れないように一人ひとりの必要性に応じて支援している。	馴染みの人や場所を把握し、お墓参りや美容室等個々の希望する外出先に職員と家族が協力し合い出かけている。また、自宅に帰ることや友人知人の面会、地域住民による見学の自由など馴染みの関係を大切にしたい暮らしの実現に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの個性や今まで生きてこられた経緯を重んじながら集団生活が利用者同士より良い関係が築かれるよう職員が間に入ったりしながら支援させて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要な時には、情報提供など出来る事はさせて頂き、相談支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中の対話や表情から本人の思いを察するように努めておりさらに家族からの情報を得て意向の把握を行い一人ひとりについて検討している。	契約時のアセスメント情報に加え、日々生活する中で見せる表情や言葉、家族からの意見を参考に、利用者の思いや意向を把握し、毎日の申し送り時やカンファレンスで職員間での共有を図り、本人の望む暮らしの実現につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族から情報を伺っている。又入居者のサービス利用の経過等は担当ケアマネサービス提供者から情報を頂き把握出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録での状況の把握、担当者会議・ミーティング等での情報交換で、現状を把握するように努力している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の生活に対する意向を尊重し総合的な援助の方針を現状に即したチームで達成できるように作成し評価が具体的にわかりやすい介護計画の作成に努めている。	毎月のミーティング時に日々の様子や状態を確認し、6か月毎にモニタリングを実施し記録している。介護支援専門員は家族とともに受診に同行し、医師の意見をもらい、訪問看護の意見も参考にしながら介護計画を立てており、状態が変化した場合にはその都度介護計画を立て直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったサービスの実施状況と結果を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しミーティングの際に記録を基に話し合いを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の別のグループホームやデイサービス等の活用情報の収集に取り組んでおり、発生するニーズに対応できるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内の幼児施設・学童施設等との交流は日常的に行っており、散髪は地域資源の協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診に関しては、入居前からの本人家族の状況のわかる医療機関を継続受診しており外来受診が難しい状況の際は訪問診療等への移行を家族と共に検討している。	入居後もこれまでのかかりつけ医の受診を行い、受診が難しい場合は本人家族の希望する医療を受けることができている。訪問看護とは24時間体制で連携が図れ適切な対応が取れていることから、利用者家族に加え、職員の安心にもつながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との医療連携業務体制を業務委託し専門的に支援している。看護師による利用者の健康管理や状態変化など伝え、相談しそれに応じた支援を行っている。受診の様子・観察、緊急時等の対応も支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医やソーシャルワーカー家族等連絡を取り、回復状況等の情報交換や提供を行い利用者様の状態確認を行っている。また退院支援についても情報提供等を行い、訪問看護との医療業務提携し対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期の在り方について説明を行っている。利用者の状態なども家族に連絡し、話し合いも行う。職員で対応方針を共有し支援している。看護師を中心に応急手当や初期対応の訓練も行っている。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針について」を説明、同意を得、入居後も重度化した場合等状態に応じて改めて「終末期のあり方について」に同意をもらっている。また、重度化や看取りに備え研修会を実施したり、訪問看護や往診医との連携もこまめに確認しているところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備えて職員は講習会等に参加している。また、救急車の呼び方や情報提供書を用意しており、不測の事態にも対応出来る様に訪問看護と医療業務連携体制を整え支援している。		
		○災害対策	年2回、避難経路の確認、避難訓練などを実施している。	年2回の災害訓練では利用者や家	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	誘導方法、消火器の使用法、通報訓練等を実施した。地震想定訓練も実施し、今後は水害想定訓練を行う予定。地域との協力体制では、町内会行事、運営推進会議を通じ町内会長、地区消防団長とも話し合い協力体制を取っている。	族、職員に加え、地域の方々の参加も得られ、地域との協力体制を確認し構築することができた。また、毎月のミーティング時には消火器の点検や避難経路を確認するとともに、飲料水や食料、カセットコンロやラジオ等の準備確認を徹底させるなど万一来に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人の人格をふまえ、特に入浴、排泄時には注意を行い、プライバシーを配慮した声掛け介助を行うよう留意している。	人格の尊重や接遇に関する研修に参加し、職員に報告、共有することでプライバシーに配慮した言葉かけやさり気ない対応に努めている。居室のポータブルトイレには人目につかないようカバーをかけるなど普段から心配りがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や、自分で決める意思を大事にし、入浴時等の着替える服を選んでもらう等働きかけたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペース及び体調、気分等を考慮し食事、日課等に柔軟に対応し、職員の都合を優先することなく、利用者様に歩調を合わせるようにし支援等に努めている。		
		○身だしなみやおしゃれの支援	利用者様の生活習慣や好みで自己表現できるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	口元や髪型を整えて清潔に保っている。理美容の訪問サービスも定期的に行い、希望に添える髪型になるようカットしている。更衣でも自分で選んで貰っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき食後はお盆拭きして食器洗いなどして頂いている。	夕食は宅配サービスを利用するが、朝昼食は法人の献立表や利用者の好み、リクエストも参考にしながら食材や調理方法に手を加え調理している。また、調理の下ごしらえや食事の支度を利用者職員が共に行い、同じメニューを会話を楽しみながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量の記録を毎日とり・栄養不足にならないよう気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人口腔ケア実施している。口腔内の訴えがある時は、歯科医に往診頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にし紙パンツ・尿取りパットも本人に合わせて使用排泄パターンを把握し時間を見てトイレ誘導を行っている。	日中は基本的にはトイレ誘導を行うことで排泄の自立を支援するとともに、リハビリパンツやパットの使用を減らすことにもつなげている。また、入院等でおむつになった場合も排泄チェック表を活用するなどして布の下着に戻す努力も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のための食材やメニューを工夫 ラジオ体操や散歩等で体を動かし水分も十分補給する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日により入浴日を決めており利用者様の体調等に応じ清拭とか変更を行っている。	週に3日を入浴日としているが、希望があればいつでも入浴は可能であり、入浴剤を用いて気持ち良く入浴して頂いている。皮膚疾患のある方への配慮や同性介助の希望にも対応し、入浴後は好みの飲み物を飲んで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状況を把握しその都度対応している。寝具類も馴染みの物を持参し、シーツ・カバー等も定期的に洗濯し気持ちよく眠れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>誤薬の無い様に飲み終えるまで見守り確認する。処方の変更時、受診ノートに記載申し送りにて再確認する。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の状況把握し出来る事は、協力して頂いている。残存機能を維持しつつ日々の生活にメリハリを持って生活出来る様支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>年間の行事計画を立て花見・果物狩り・外食等の支援を行っている。利用者様の体調や天候等にも配慮し外出やドライブ等が楽しめるよう可能な限り支援している。</p>	<p>初詣や花見、果物狩りなど毎月のように外出行事を企画し、歩行の難しい方もリフト車を利用して出かけている。また、十五夜や運動会等の地域行事への参加や保育園児との交流など楽しい企画を組みこみ、外出による気分転換、五感の刺激が得られるよう支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の管理能力に差がある為事業所にて管理している。一人ひとりお小遣いがありパンや菓子飲み物など購入している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の出来ない方については、職員にて対応。手紙は、ご本人で書いて頂き宛先等については職員にて対応。また自己管理できる人は、携帯電話を使用されている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペース（ホール）では、テレビを観たりゆったりと過ごせる大きなソファが設置されている。外の様子も見える大きな窓もあり春夏秋冬を感じられる。	玄関は広く出入りしやすい造りになっており、リビングにはテーブルや椅子、ソファが使いやすく配置され、利用者が思い思いの場所に座りくつろいでいる。また、壁には利用者と職員で作った季節の作品が飾られ、楽しい雰囲気が感じられる。衛生面にも気を配り、職員が毎朝喚起をしながら消毒剤を使用して入念に掃除を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなソファがあり多数の方が座られふれあいの場所でもある。テレビも見やすい場所に設置テーブル移動も自由に出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や服・タオル等ご家族の写真 思い出の品物を居室に置き安心して過ごして頂くようにしている。	契約時に自宅で使っていた馴染みの品を持ち込んでもらうことを伝え、寝具や時計、編み物セット等趣味の物を持ち込まれるなど居心地のよい居室作りに努めている。歩行器を利用される方には、家具が動線の妨げにならないよう考慮し対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設全体バリアフリーであり壁側に手すりも設置し、安全に歩行出来るように歩行器や車椅子もスムーズに動けるよう対応している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない